

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4090800279		
法人名	社会福祉法人 怡土福祉会		
事業所名	グループホーム照葉		
所在地	福岡市東区香椎照葉3-4-3 (電 話) 092-663-8500		
自己評価作成日	令和 5 年 1 月 25 日	評価結果確定日	令和 5 年 3 月 16 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

入居者様個々の性格や状態を理解・把握し、その方らしい暮らしや生活スタイルを大切に、ご入居頂いてからも続けられる様に支援しております。コロナ禍で外出や面会制限がある状況下が続く中で、いつでもグループホーム玄関窓越しでの面会は可能とし、居室の様子を伺いたい際は、ご家族様に外から回って頂き様子を見てもらう等工夫をしながら、ご家族様や入居者様が少しでも安心して頂ける様な環境調整も行っております。また、少しでも外出した雰囲気になる様、当施設には屋上や中庭もあるので、季節に応じその場所を利用して楽しめる行事ごとや、季節ごとに装飾を工夫し、春夏秋冬を楽しめるフロア作りを入居者様と作りつつ、行事や日頃の余暇活動等にも力を入れ職員と入居者様と楽しむ時間も大切にしております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町3-1-7
訪問調査日	令和 5 年 2 月 20 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

水と緑に溢れた広大な公園に位置する3階建ての建物で、1階がグループホーム、2階には地域密着型特別養護老人ホームがあり、特別養護老人ホームが併設している。職員は利用者のこれまでの日課や生活習慣を尊重して、一人ひとりに合わせたコミュニケーションや支援を心がけ、一日を楽しく過ごせるように理念の実践に取り組んでいる。コロナ禍のため、なかなか外出できない状況があるが、利用者に少しでも楽しんでもらえるよう行事や季節感が味わえる装飾を工夫して取り組んでいる。地域包括支援センターからの提案で、東区グループホーム意見交換会を開催する等、地域のグループホームとの交流を今後も継続して取り組む方針である。

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅰ 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設全体の理念と共にグループホーム独自の理念を設け、その方らしく日々生活出来るように話し合い、朝の申し送りで唱和し、職員で確認、共有してプランにも反映させ、実践につなげている。	事業所独自の理念があり、朝礼時に唱和している。職員は利用者のその人らしさを理解できるよう、コミュニケーションを図っている。これまでの生活習慣や日課を尊重して、入居前の生活を継続できるよう支援して、理念を実践できるよう取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍前は、地域の小学校やボランティアとの交流、公園への散歩、近隣の店への買物等でも地域との交流を行っていたが、現状では、施設の方針もあり難しい状況である。感染面の考慮もあり、事業所としての交流は施設トップが行っている。また、地域包括支援センターの協力もあり、共に東区のグループホームとの交流も始まっている。	「照葉かわら板」を作成して、地域や家族に配布している。事業所主催の秋祭りに家族やボランティアの方の参加がある。公民館や地域包括支援センターから地域行事の案内があり、公園で開催された健康フェスタに利用者と一緒に参加している。また、近隣の幼稚園、小学校からの職場見学や大学から実習生を受け入れる等の交流がある。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居説明も兼ね、グループホームとはどういう役割を持っているのか、来所された方には分かり易く説明を行って認知症に対する理解を深めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍のため、令和2年1月からは書面での運営推進会議を開催しており、市・地域包括支援センター・地域の有力者・ご家族より意見をもらい、ご入居者様は随時、ご家族様は面会・カンファレンス時等に意見を伺い、サービスの向上に活かしている。	2カ月に1回、運営推進会議を開催し、利用者やサービスの状況、事故報告等を行っている。コロナ禍のため、書面での報告であるが、利用者や家族、地域包括支援センター、地域の代表者の方が参加され、参加者にはアンケートを取り、出された意見を運営に取り入れている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	施設としては、トップが常に交流を行っている。グループホームとしても初めてのコロナ禍で戸惑い・限りもあるが、コロナ禍での活動・報告等を行い、今後も協力関係を築けるように取り組みを行っている。	地域包括支援センターからの提案で東区グループホーム意見交換会を開催する等、地域の事業所との交流を今後も継続して取り組む方針である。地域の高齢化問題、認知症を知ってもらうためのきっかけづくり等の情報提供があり、市町村と協同して、地域住民に認知症の方への声かけの仕方について、ワークショップを開催している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部・内部研修・勉強会でも知識を深め、身体拘束ゼロに取り組んでいる。8月の内部勉強会でもグループホーム主催で文書伝達ではあるが取り組みを行った。玄関鍵については、現状、離設のリスクがある方の対応以外は、基本施錠せず、抑圧感のない暮らしを目指している。	庭への出入り口は自由に鍵を開けて、庭に出ることができる。近くに大きな川があり、危険防止のため、家族の承諾を得て玄関を施錠している。帰宅願望の強い利用者へはコミュニケーションを取ったり、事業所内を一緒に歩いて、落ち着けるよう支援している。事業所で虐待防止のための指針、マニュアルを作成している。	玄関の施錠は身体拘束に該当するので、運営推進会議等を活用しながら、開錠に向けた取り組みをお願いしたい。

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部の勉強会でも高齢者虐待がテーマに上がり、文書伝達ではあるが、確認・周知を行っている。昨年8月より委員会活動も隣接の特養から独立しグループホーム単独での活動に切り替えを行ったばかり。今後も、安全・身体拘束委員が中心となり、虐待の防止に努めていく。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コロナ禍で外部への研修参加は行えなかったが、文書での勉強を行う一方、過去対象者の弁護士さんに聞いた事等をもとに、職員とも共有して支援している。	コロナ禍のため、資料を閲覧して職員が学ぶ機会を設けている。必要に応じて家族に権利擁護に関する制度に関して説明を行っている。運営推進会議の中でも、地域包括支援センターから制度についてパンフレットの配布があり、議題として取り上げる等、制度を必要とする人が活用できるように取り組んでいる。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、面談時には必ず立ち合いを行い、ご本人様やご家族に十分な説明を行い、不安や疑問が生じていないか確認している。リスクや重度化に伴う事なども今後あり得ることとして説明、理解・納得をして頂いている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱の設置、面会時・プラン更新時に日頃の様子、文書開催での運営推進会議、定期的な新聞などでコロナ禍での生活の報告を行い、意見をもらい、それを反映できるように取り組みを行っている。	運営推進会議では、職員からの声かけにより利用者や家族が意見を出しやすいように工夫している。家族から100歳の誕生日を祝いたいとの希望があった際には、職員で飾り付けを行い、入居してからの写真を飾って、誕生会を開催するなど運営に反映させている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月スタッフ会議を行い、各職員に意見を求めている。また、日常的にも意見、気づき、提案を聞くよう配慮し必要あれば代表者に相談し、反映させるよう心掛けている。	自己評価では、管理者が外部評価とは何かを説明し、各ユニットごとで取り組み、全職員に記載してもらい、管理者で取りまとめている。毎月のスタッフ会議で利用者のケアや業務改善の意見、行事の提案など出された意見を運営に反映させている。管理者は日頃から職員が意見を言いやすいように、職員を尊重するよう心がけている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は日々、職員の勤務状況を把握し、業務時間内に事業所を訪問し、職員や利用者との交流を図っている。解決したい問題が生じた時には相談に努めている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員募集、採用に当たって定年年齢を上限とする以外の年齢制限・性別基準を設けず決定している。経験・能力を考慮し、個性を尊重して助け合いながら業務を行っている。資格所得についても考慮して勤務を組んでいる。	年齢や性別で採用対象から排除せず、幅広く採用選考を行っている。定年はあるが、希望があれば65歳まで働くことができる。また、資格取得などに係る研修費や受験料については法人負担として、自己実現ができるよう配慮している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人内外の研修に参加し学ぶ機会を作り、取り組みを行っている。	事業所で、年間の研修計画が策定されている。コロナ禍のため、毎月の会議の中で、管理者が研修テキストを基に情報提供を行い、学ぶ機会を設けている。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内部の勉強会や外部研修への参加、働きながらの資格所得へも職員協力しながら行っている。一緒に働く中で、気があれば相談も受け、アドバイスも行いながら、より良いケアの向上に努めている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で交流にも限りはあるが、地域包括支援センターと共に東区グループホームのネットワーク作りも進んでいる。同法人のグループホームにも意見をもらう等して向上させていく取り組みの参考にしている。また、隣接の関連施設とも、勉強会・行事等を一緒にを行い、連携を図っている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	併設施設の相談員とも連携をとり、相談受付の際ご本人様に必要な支援を考慮し、対応に努めている。また、そのニーズがグループホームで対応可能か、今まで居られた病院の相談員、居宅ケアマネジャー等とも情報の共有を行い、その状況に合わせた支援を検討している。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学时や事前の面談にてご家族様の話を聞き、困り事や要望を明確にし、気持ちに寄り添い不安を解消出来るサービスを提供する事を心掛けている。安心して頂けるよい関係作りに努め、また、ご本人とご家族の要望が異なる時には個々に時には一緒に耳を傾けて双方の気持ちを把握するようにしている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談受付の際ご本人様に必要な支援、ご家族様が求めている支援を考慮し、他のサービスも含めた対応に努めている。入居以降に関しても、常に必要なサービスを皆で検討している。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様と職員は同じ生活の場で共に過ごし、その中で一人一人の個性を見い出す努力をしている。それによりそれぞれの好みや役割を確認し合う事で信頼関係の構築にも繋がっている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今現在、距離をおいての対面面会ではあるが、面会・訪問時には必ず生活状況や近況報告を行い、情報の共有に努めている。職員ではできない、ご家族様だからこそできる支援を相談したり、ご本人様の共に生活を守っていけるような働きかけを行っている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍でもあり、人ごみを避けたドライブでなじみの場所を訪れたり、面会が可能時には感染対策を第一に、1階でもある為、可能な限り会って頂くように支援している。	管理者や職員は、利用者の生活歴や馴染みの場所や人について、入所前に家族や利用者に聴き取りを行い、職員間で情報共有している。家族の付き添いで、行きつけの美容室に通ったり、友人との面会や一緒に手紙を書くなど、これまでの関係性を継続できるよう支援に努めている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いが穏やかに楽しく過ごせるよう相性などを見極め支援している。入居者様同士のトラブルが起きないように介入し、支え合う場面では見守りし、良好な関係が気付くことが出来る様にサポートしている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	やむなく利用を終了する入居者様もご家族様より近況をお聞きしたり、コロナ禍で難しい部分もあるが、入居者同士のこれまでの関係も大切にするとともに、相談・支援を受け易い環境が保てる様に努めている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々コミュニケーションを取り、個々の望む生活が送れる様に努力し、自発的な発言・行動が望めない方には注意深く観察し、表情・癖・視点等から出るサインを見逃さないようにしている。	利用者の思いや意向は、入居前の生活歴や職歴、性格や好きな事など、事前に情報を収集した上、日々の関わりの中で、その人らしさを理解するようにしている。意思表示が難しい場合は、表情や行動などから、思いや意向をくみ取るように支援している。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活が大きく変化しない様にご本人や家族から聞き取りを行い、経過等の把握に努めてはいるが、長引くコロナ禍で受け入れ前の対面の情報収集が難しく、入居後コミュニケーションを重ねながら把握する事が増えてきている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自由に好む事が出来るように、他者との交流を、楽しめる様に現状の把握に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・ご家族の意向を基にケアプランの作成を行うが、支援内容については、その都度見直しが出来る様に、職員と意見交換を行っている。カンファレンスで率直な意見をもらい、違う意見にも耳を傾ける様にしている。	職員による担当制をとり、職員1名につき1～2名の利用者を担当している。担当職員は、毎月、モニタリングや評価を行っている。また、担当以外の職員も一緒にカンファレンスに参加し、情報や課題を共有している。作成された介護計画は、家族に説明して署名をもらっている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	特記だけでなく、職員間で入居者が楽しく過ごす様子、発言等を聞き、ご本人の得意な事・役割を見つけ、その方らしく生活を楽しむ事が出来る様に介護計画の見直しに活かしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族に状況、ニーズに合わせ、個々に必要な支援を職員で共有・工夫しながら取り組んでいる。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で、感染対策を取った上での限りはあるが、施設内で季節感を味わえる催し等の実施、天候を見ながら近所の公園へ散歩に出かけたりと随時行っている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前よりかかりつけ医がある方は、希望がない限り継続をして頂いている。また、専門医の受診が必要な場合にはご家族様・主治医との協議を行い対応するなど、かかりつけ医との相談・連携は密に図っている。	利用者は、今までのかかりつけ医を継続して受診することができる。事業所には、3か所の診療所と歯科医院が訪問診療をしており、かかりつけ医を変更することも可能である。病院を受診する際は、状況報告書を準備し、グループホーム内での様子が医療機関に正確に伝わるようにしている。家族等と受診時の通院介助の方法、情報の伝達方法について話し合っている。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携を取っている特養看護師の定期的な訪問・日々の相談、必要な方にはかかりつけ医からの特別看護指示でのリハビリ利用等、適切な受診や看護を受ける事が出来る様に支援している。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時はなるべく当日に情報提供を行い、医療機関と連絡や情報共有が出来るように努めている。入院中の状態を定期的に病院関係者に確認し、退院後の受け入れに備えている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族の意向を共有し、状態変化時には、その都度話し合いを行っている。終末期においても安心して生活出来るように状態に応じた支援に努めている。	重度化についての指針があり、重度化に伴う対応について、契約の前に説明し、方針を共有して支援している。また、状態の変化に応じて、随時、利用者や家族、医師、訪問看護師等で話し合い、今後も事業所にて継続してケアを受けていくのかといった意向が確認され、希望すれば、特別養護老人ホームや介護医療院へ移る支援も行っている。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な社内研修へ参加し、慌てず対応が出来るように実践の会得に努めている。また、急変時対応マニュアルを作成し、必要時に迅速に対応が出来るようにしている。慌てず、落ち着いて行動出来るようにマニュアルの把握を行っている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、併設施設と合同で避難訓練を行う。入居者様にも参加して頂き安全な避難方法の確認を行っている。コロナ禍で運営推進会議での呼びかけは出来てはいないが、面会時に協力をお願いはしている。また、災害時の非常用備品の備蓄も施設倉庫内に収納している。	併設する地域密着型特別養護老人ホームと合同で避難訓練を年2回実施し、その内1回は夜間想定訓練を行っている。非常用の備品は、事業所内と併設特別養護老人ホームに分散して準備しており、缶詰やアルファ米、飲料水、寒さをしのげる布団、毛布が準備されている。	
【Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の人格を踏まえ、プライバシーに配慮し、一人一人その時にあった声掛けでの対応に努めている。人格の尊厳を傷つけない言葉遣いや口調・姿勢に配慮している。	職員は利用者を人前であからさまに介護しないように、トイレや入浴の際には、さりげなく対応するように心がけている。利用者のプライバシー、個人情報の取り扱いについては、特に注意し、研修を実施したり、個別に指導を行ったりしている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一対一での会話や日頃の行動、発言、仕草、表情の観察を行い、ご家族様の意見も踏まえてご本人様の希望や思いを把握し、職員の都合で入居者様の行動を決定するのではなく、自身で理解し決定して頂けるように心掛けている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを尊重した生活を過ごして頂ける様に配慮している。活動の参加は体調や心情に合わせてご本人様の意思確認を行っている。穏やかな一日を過ごす頂くため声掛け、自分らしく過ごせる様に支援している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	要望を聞きつつ、季節に合う衣類を職員と一緒に選ぶ。男性は毎朝の髭剃り、男女ともに爪切りへの配慮等とともに、定期的に訪問理美容を受けら、身だしなみへの支援を行っている。着る洋服に迷いがある時には相談にもなっている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜を切ったり、ちぎったり、味見をしたりと調理の出来る事でお手伝い、食器の洗浄・片付け等して頂いている。食事中も音楽を流したり、話題を提供したりと少しでも美味しく食べて頂ける様努力している。	利用者と職員と一緒に食事をとっている。献立の立案、材料の調達から調理まで事業所で行っており、利用者に合わせて味付けや、嗜好に臨機応変に対応することも可能である。温かいものを温かい状態で提供することを心がけている。利用者の楽しみとなるよう季節に合わせた行事食も提供している。	

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は併設施設の栄養士によるバランスのとれたメニューを参考にし、食が細い方には無理なく完食される量で、重度の方には栄養補助食品を併用するなどして栄養のバランスを取っている。それぞれの方の一日に必要な水分量を把握し、習慣も気にしながら支援を行っている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声掛け誘導を行い、援助が必要な方にはその方にあった援助にて対応、うがいのできない方はスポンジを使うなどして、磨き残しがない様に介助を行う。口腔内の清潔を保つと共に義歯は夜間消毒する。歯科医師にも相談し指導、助言を頂いている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様の行動や、排泄表にて個々のパターンを確認し定期的な声掛け、誘導を行っている。定期的に使用パットの見直しをしたりして、必要以上のパットの使用を避けている。頻尿での失敗が多く見られる時には、かかりつけ医とも相談を行って支援している。	職員は、日頃の様子などから利用者の排泄のサインを把握し、失敗のないように早めの対応を行っている。入院などにより、一時的におむつや紙パンツに変更した場合は、病院と連携しながら、病院で行われていた排泄の自立支援を、事業所に戻ってからも継続して行っている。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の排泄の回数、排便の有無を確認し、水分や牛乳など摂取して頂いている。また、歩行や運動を促し自然な排便を心掛けている。便秘の場合は医師に相談し、処方の内服薬を服用して頂き排便コントロールを行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	全体のバランスを考慮に入れ、ゆったりと入浴して頂ける様に支援を行っている。また、入浴剤を使用し、気分転換や保湿に努めている。また、可能な限り入浴時間や順番、湯温の要望に応え、安全にも配慮して入浴して頂いている。	入浴は毎日可能であり、週に3回入浴する利用者が多い。入浴を望まない利用者に対しては、無理強いをせず、入浴日を替えたり、声掛けするスタッフを替えたりして対応している。また、入浴剤や柚子湯など、入浴が楽しみとなるような取り組みも行っている。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活リズムや睡眠パターンを把握して、ソファや居室で自由に休息を取って頂いている。就寝時は居室の環境を整え、安心できる室温や明るさ、寝具の状態にも配慮し安眠の支援をしている。また、夜間パット交換の支援が必要な方にも安眠を妨げないようパットの大きさに配慮する等の方法で支援している。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情は個別にファイルし管理している。職員全員が閲覧し、薬に関する情報の理解に努めている。処方時は内服薬の変更がないか確認し、服薬時は飲み込みまでの確認と誤薬防止の為にルールを決め、複数職員での二重・三重のチェックを行っている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴やご家族からの情報、日常での個別のアセスメントにて、趣味や得意な事を見つけ、日々のレクリエーションで発揮出来る機会を作ったり、その方が活気が持てる様に援助を行っている。また、嗜好品も可能な限り対応している。外出がままならない中、季節ごとの行事で楽しんで頂いた。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍でご家族様との外出はできていないが、天気の良い日は外への散歩に出かける様に努めている。散歩が苦手な方には、施設屋上に景色を見に行くなどの支援を行い、施設内売店には職員と一緒に買い物に出かけている。	コロナ禍のため、以前のように月に1度、花見や海、野球観戦、薔薇園など出かけることが困難な状況であるが、天気の良い日は、事業所の周辺を散歩したり、花見に出かけたりしている。事業所の屋上でバーベキューを行うことで非日常を演出し、外出に変わる行事を提供している。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望のある方はご家族様と相談して所持して頂き可能な限り自己管理して頂き、職員と一緒に自販機や売店で買い物を楽しまれている。お金が手元にある事で安心される方もおられる。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人持ちの携帯電話使用や、固定電話取次の支援、年2回のはがきのやり取りなどご本人様に何らかの関りをして頂いている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地の良い空間作りを心掛け、壁にも季節を感じさせる工夫を行っている。また、誰もが気軽にくつろいで集まれる団らんスペースを設けている。	リビングや廊下には、利用者が作成した作品が、季節に合わせて月替わりで掲示されている。桜や藤の花、鯉のぼり、七夕飾り、クリスマス飾りなど、季節を感じる事ができる作品が飾られ、利用者が居心地よく過ごせるよう工夫されている。	

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファは一人でも馴染みの方とでも自由にいつでも過ごせる様に配慮している。テーブル席は身体面だけではなく人間関係も配慮し、より心地よい場所になる様に一人一人の意思と心情を尊重しつつ、トラブルの回避にも努めている。ソファ、テレビ等の配置を変える等して工夫を行っている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や馴染みの物を置いて頂き、以前からの生活スタイルで居心地よく過ごせる様に工夫している。また、ご家族の写真や好みの装飾を行い、穏やかに過ごせる様に努めている。お気に入りのぬいぐるみやご自分の作品など飾られている方もいる。	居室には、ベッドとクローゼットがあらかじめ置かれている。家具などの持ち込みは自由にでき、ソファやドレッサーなど馴染みの家具が持ち込まれ、個性の感じられる部屋となっている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人が移動しやすい様に配慮をしている。また、必要な場合は居室やトイレなどが判りやすい様に札を付けるなどの援助内容をその都度工夫している。居室内も、安全に配慮した家具位置の導線を心掛けている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)		①ほぼ全ての利用者の
			○	②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)		①毎日ある
			○	②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいの
			○	③利用者の1／3くらいの
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
			○	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)		①ほぼ全ての家族と
			○	②家族の2／3くらいと
				③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
			○	③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		①ほぼ全ての職員が
				②職員の2／3くらいが
			○	③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
			○	③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての家族等が
			○	②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅰ 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設全体の理念と共に、グループホーム独自の理念「私らしく、地域と共に…」を設け、入居者様それぞれが自分らしく日々生活が送れる様に、職員やご家族様等ともちょっとした変化においてもお話しをする機会を設け、ケアプランへも反映させ実践をしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症の影響が続き、地域の小学校やボランティア、地域の方々との交流を持つことが、施設の方針と感染面での考慮から現在も難しい状況である。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居の申込や見学等では、新型コロナ感染症に伴い、説明と写真や施設建物外から中の様子を見て頂いている。グループホームとはどのような所であり役割をもっているのか、認知症の方への理解にも繋がる様、分かりやすく説明対応に努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍が続き、施設の方針もあり対面での運営推進会議開催までに至っていないが、市・地域包括・地域の有力者・ご家族より意見をもらい、ご入居者様は随時、ご家族様は面会・カンファ時等に意見を伺い文書での開催を行っており、サービスの向上に勤めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	施設としては、施設長が常に交流を行っている。コロナ禍で戸惑い・限りもあるが、コロナ禍での活動・報告等を行い、今後も協力関係を築けるように取り組みを行っている。また照葉地区の認知症サポーター研修へ参加をしたり、東区のグループホームとの意見交換会の場にも出向き他事業所の状況も知ることが出来た		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修、勉強会でも身体拘束ゼロについて知識を深め取り組んでいる。8月の内部研修でもグループホームが主催となり、文書伝達ではあったが取り組みを行った。玄関の鍵や東西ユニット間の扉の鍵は基本施錠せずに、抑圧感のない暮らしを目指している。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	内部の勉強会でも高齢者虐待がテーマに挙がり、文書伝達ではあるが、確認・周知を行った。昨年8月より委員会活動も併設特養から独立しグループホーム単独での活動に切り替えを行ったばかりだが、安全・身体拘束委員が中心となり、虐待の防止に努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コロナ禍で外部への研修参加は行えていないが、文書で学ぶ一方、過去対象者の弁護士に伺った事等をもとに、職員とも共有して支援している。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、面談時には必ず管理者が立ち合い、ご本人様やご家族様に十分な説明を行い、不安や疑問が生じていないか、リスクや重度化に伴う事なども今後ありうることとして説明、理解・納得をして頂いている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍でもあり、対面での運営推進会議の開催は行えていないが、日頃の様子は面会時や「照葉かわら版」という広報誌を定期的に発行し生活の報告を行っている。また玄関に意見箱の設置やサービス担当者会議時、面会時にご意見を頂き、それを運営へも反映出来る様に取り組んでいる。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月グループホーム全体での会議、その後各ユニット会議を行い、職員より意見を頂いている。また会議のみならず日常の中でも意見・提案等も伺う様、努めており、それを代表者へ相談し出来る限り反映出来るように心がけている。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者（当施設長）は日々職員の勤務状況や個々の努力を見て下さっており、業務時間内に訪問し、職員や入居者様との交流を持っている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員採用に当たっては定年年齢を上限とする以外での年齢制限や性別基準などを設けず決定をされている。また経験や個々の能力を考慮し、今後を考えての資格取得なども考慮されており、個性を尊重し互いに助け合いながら業務を行っている。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	コロナ禍で外部へ出での研修へ参加をするという機会はないが、法人内部では学ぶ機会を作り、常に取り組んでいる。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍の状況でもあり、外部研修へは参加は出来ていないが、内部研修において毎月文書伝達となることもあるが学ぶ機会がある。代表者も個々の能力や経験が活かせる様、資格取得の機会を設けて下さったり、働きながら資格取得も出来る様に、職員間でも勤務調整等も含め協力し合っている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で交流にも限りはあるが、地域包括と東区の地域保健福祉課の方と共に東区のグループホームとの意見交換会の場を作り第1回を開催。今後継続していくことで進めている。併設特養とも、勉強会や行事等と一緒にやり連携をとっている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	グループホームの入居を検討している段階で、自宅であっても入院中の方であっても相談受付や退院の話が挙がった段階で、本人のニーズと共にグループホームでの生活が可能かどうかを関係機関等とも連携をとり、見極めその方の状態に合わせ対応をさせて頂いている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	新規の相談受付・見学・面談より、ご家族様の話を良く聞き、お話をしていく中で、要望や困り事等を明確にし、不安の解消に努めている。また家族間での意見の相違等がある場合には、一緒に話し合う機会を設ける等、双方の気持ちを把握するようにし、関係作りに努めている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談受付時より、状況を確認した上で必要としている支援を見極め考慮し、他のサービスを含めた対応に努めている。入居以降も状態に応じて事前に先を見越して、グループホームでも利用できる社会資源（おむつサービス等）の提案もさせて頂きつつ、常にその時々に必要なサービスを職員で検討する様にしている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と個々の入居者様と共同生活を送る中で、1人1人の能力を大切にし、また個性を見出す努力もしている。それぞれの性格も含め好みや役割を職員間で確認をし合うことでお互いに学ぶことも多く、個々の入居者様と信頼関係を築いている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員のみならず家族の支えがあり共同生活が成り立つことでもある為、コロナ禍が続いているが、玄関越しの短時間面会を設けいつでも会える環境を提供している。ちょっとした様子、状態変化等も電話を含めご家族様へもお話する機会を多々設け、ご本人様を共に支えていく信頼関係を築いている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	当ホームの玄関越しの短時間面会は日中決まった時間内であれば事前連絡をもらい、いつでも可能であることをご家族様へも文書を含め都度お伝えし、馴染みのある方との関係が途切れない様、支援に努めている。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の性格や関係性を職員もしっかりと把握をし、孤立せずに入居者様同士が関わり合えるよう、食事席の配置を変えて見たり、職員がさりげなく対応をしながら、支え合う部分では見守りを行いつつ、状況に応じ職員間でもすぐに話し合いの場を設け、少しでも安心して生活が送れる場の提供を検討し実践している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了した後でも、ご家族様よりその後の様子の連絡下さったり、お手紙で下さったりということもあり、常に相談や支援を受けやすい様なお声かけや対応を行う様にしている。		

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃の入居者様とのコミュニケーションだけでなく、意思疎通が難しくなった方とは日頃の表情や様子（入居時の様子を振り返る）、入居時の意向等を踏まえ、その方らしい暮らしが継続出来る様に、支援をしている。またご家族様にもご意見を伺い、以前はそういう考えだったかを参考にしている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居が確定した時点でご本人様やご家族様、関係機関等からも、今に至るまでの生活状況、趣味嗜好等の把握を可能な範囲で行い、入居以降もご本人様らしさ、生活スタイルも尊重しながら、過ごしやすい環境作りに努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活環境が変わっても、その方らしさが崩れてしまわない様、個々の生活スタイルやリズムを日頃より職員でコミュニケーションを取り把握し、状態変化に応じ随時カンファレンスを行いながら、早期発見対応に努め、状態把握と連携支援に努めており、環境整備等も行っている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護職員にも1～2人担当を持ってもらい、モニタリング・アセスメントを実施。日頃の入居者様やご家族様との関わりの中で意向や思いを汲み取り、状態変化時や定期的に入居者カンファレンスの機会を設け、職員の意見等を組み込みながら、プラン作成に努めている。また状態変化時には随時、その方らしい生活が継続出来る様、計画立案に努めている。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のちょっとした変化なども含め細かく介護記録へ記録を残し、個々の連絡事項の作成と記録の継続。また日頃より職員間でのコミュニケーションや申し送りを大切にし、時には申し送りの時間がカンファレンスの場となりつつ、情報共有から支援の見直しにも繋げて実践をしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り本人様やご家族様の意向に添えるように、自立の方から全介助の方まで、必要な支援は既存に捉われず、職員間でも検討し、柔軟な支援やサービス提供に努めている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の中で、今まで行えていたことが行えない状況下でも感染対策を取った上での気分転換の為の外出支援（ドライブ）や人気の少ない時間帯に天候を見ながら、近くの公園を散歩したりと適宜行っている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は様々ではあるが、希望に応じてご家族様協力の元通院されている方や訪問診療利用される方がおり、それぞれで対応をしている（通院をされている方には経過報告書を作成し連携を図っている）。また小さなことでも医療機関と相談や連携を密に図り詳しく伝えるようにしており、状態変化時にはすぐに電話連絡し指示を仰いでいる。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃より職員が健康管理を行い、小さな気づきや状態変化時にはかかりつけ医へ報告相談を行っている（往診者に限り必要時はDr. 指示で訪問看護が一時的に介入することもある）。特養看護師とも医療連携体制を取っており、週1回の訪問があり、特殊な方の爪切りや、家族受診対応者の方の相談等も行っている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には迅速に情報提供を行っている。また入院中もご家族様や医療機関との情報交換を行い、コロナ禍ではあるが可能であれば直接訪問し、面談やカンファレンスへの参加・調整等を行い、退院をしてからもホームでの生活に戻りやすい様に支援をしている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人様やご家族様の意向を尊重し、職員と共有し、状態変化に応じて話し合いを重ね、終末期においても安心して生活が送れる様に状態に応じた支援や対応に努めている。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時マニュアルを作成し、落ち着いて迅速な対応が出来る様に各自マニュアルの把握を行っている。また定期的に内部研修へ参加をし、急を要しても慌てず対応が出来る様に実践を通し会得に努めている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回併設施設と合同で避難訓練を行っている。入居者様にも参加して頂き安全な避難方法の確認を行っている。コロナ禍で運営推進会議での呼びかけは出来てはいないが、面会時に協力のお願いはしている。また災害時の非常用備品の備蓄も施設倉庫内に収納している。		
【Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃よりプライバシー保護に努めており、居室に入る際には声かけやノックを行い訪室している。言葉使いや口調、姿勢にも配慮をしている。また個々人のありのままの姿を尊重し、1人1人に合わせた声かけや会話対応に努めている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様のペースで過ごせるように見守りつつも、生活リズムを整える為、スムーズな声かけを心掛けている。いつもと違う表情の時には傾聴し、本人の意思や想いの確認に努めている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	グループホームでの日課に対して、本人の意見を尊重して無理強いすることなく、体操やレクリエーション等、日頃の活動も自由参加としている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧などをされる方には、自身が喜ばれる様な、意欲が向上するような声かけを行っている。また入浴時の衣類の準備の際には一緒に衣類を選んでもらい、本人様の着たい物や季節に合ったものを着用して頂く様心掛けています。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お手伝いができる方には職員と一緒に食事の準備や片付けを行っている。また温かいものは温かいうちに提供をしている。食事形態もその方々に合わせて食べやすい様に工夫し提供をしている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養管理体制加算として併設特養の管理栄養士の訪問が月1回ありその際に相談しアドバイスを頂いている。摂取量が少ない方には少しでも多く摂取をして頂ける様その都度声かけを行ったり、一人一人の健康状態や、Dr. の指示にも応じて過不足のないよう量の調整を行ったり、形態の工夫を行い、健康管理に努めている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの声かけや確認を行っている。また訪問歯科にも協力を頂き、毎月指導を頂いている。また個々人に合わせた口腔ケアの支援を行っており、口腔内の清潔保持に努めている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人の排泄パターンを把握しており、支援が必要な方には定期的な声掛け誘導を行っている。車椅子用トイレもあり、解除しやすい広さと利用者自身も好まれ使用をしている。リハビリパンツやパッド類も必要な方には随時状態に合わせて見直し（使用頻度や枚数等）を行い、出来るだけ本人様に合うものを検討し利用をしている。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃の活動で身体を動かしてもらうだけでなく、自然排便に繋がる様な取り組みを行っている（乳製品の提供など）。また医療連携をとっている併設特養のNsや訪問診療先等と些細な事でも連携を図り、下剤の調整・見直しや便秘の予防に努めている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	「楽しい入浴」となるように、安全面には十分配慮をしながら世間話をしたり、入浴剤を入れたりとし、ゆっくりと湯船に浸かって頂いている。またまたその方に合わせたタイミングで入浴ができる様に、声かけの工夫や時間をズラしての対応などの工夫も行っている。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節に応じて室温調整を行い、夜間眠れない時には話を傾聴したり安心して休める様に努めている。また各自のその日だけではなく体調や状態により、日中も静養の時間を設けたり、ストレスの軽減にも努めている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々に合わせた服薬方法で支援を行っており、確実に内服が出来る様に職員が全て管理をし、1日分の薬をセットし服用をして頂くまでに4名の職員が関わりチェックをしており、服用時には必ず誰の薬を服薬させるのかを同時間帯勤務者に確認をしてもらい服薬に当たっている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の楽しみや役割を大切にしており、家事作業の好きな方には無理のない範囲で入って頂いたり、ご家族様のご協力と共に、今までの生活や趣味等が継続出来る様に支援をしている		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出にも制限がある状況下にある生活が続き、気候の良い人気の少ない時間帯に近くの公園や施設周辺を散歩することが多いが、少しでも外出した気分になる様に、フロアの飾りつけを季節ごとに変化させつつ、行事ごとを盛り込み職員・入居者様と楽しんでいる。行事には特に力を入れている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭所持に関しては行っていないが、コロナ禍になる以前は、一緒に買い物へ出掛けた時には、お金を渡して支払い対応などを職員見守りの下でして頂いたこともある。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している方もおられ、子どもや親戚等と自由に電話をされている。職員は受電や正常機能になっているのか確認を行っている。また正月などハガキが届く方もあり、返信をされないかお声かけをしたりし、やり取りが出来るよう対応をしている。また正月にはご家族様へ年賀状を書き出したりとしている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	コロナ禍でもあるので、少しでも外出した気分にもなるように、居室やフロアでは季節ごとに装飾にも力を入れより工夫をし行事ごとはユニット合同で開催し、中庭では夏祭りにバーベキューを行ったりとし、入居者様と職員で楽しい時間を設けた。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日頃より職員が入居者様を見守り、各自が常に居心地がよいと感じて頂ける様に、また過ごしやすい様に、居場所にもなる様に、お互いの居室を行き来出来たり、食事席やソファの配置を変えるなどの工夫を行っている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔から馴染みのあるものや写真などを持参されている方には自由に飾ったり、置いてもらったり、誕生日や行事ごとの際には、居室に飾れるものを提供し飾ったりとして、居心地よく過ごせる様に支援をしている。また毎月カレンダーの塗り絵も行ってもらい、それも時期が来たら飾り、楽しい気持ちで居室にも居てもらえる様にしている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内でも安全を考慮した導線や環境整備を、その方の状態に応じて都度、予測できることも含め職員と検討し迅速に対応をし安全な環境作りに努めている。またトイレには分かりやすい様に看板を下げたりと工夫をしている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)		①毎日ある
			○	②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
			○	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2／3くらいと
				③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
			○	④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		①大いに増えている
			○	②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない